



こどもの「**すくすく**×**わくわく**」をおうえん

R6 年度

すくわくプログラム実施報告書まとめ
テーマ 「遊～静と動の活動～」

- どの活動も「海の生き物」が起点となっており、そこから運動遊びやリズム遊び（表現活動）、実際に本物を見に行くなど、遊びの広がりを体験しました。本物に触れることでしか味わうことのできない魅力に触れ、子どもたちの「もっと!」「なぜ?」が育まれる機会となりました。

令和6年度 高円寺りとりぱんぷきんず すくわくプログラム報告書

クラス【 3・4・5歳児 】

実施日：令和6年度4月～

テーマ：遊～静と動の活動～

ねらい：・制作や見立て遊びを通じて学びを深め、本物を知る
・自分の興味関心に合わせて必要なものを用意し学びを深める

活動スケジュール（事前準備した素材や道具・環境設定を含む）

- ① 図鑑を見たり、自分たちのイメージを広げて海の生き物の制作をする
 - ② 自分たちの思い描く水族館や海の生き物を作って見立て遊びを楽しむ
 - ③ 図鑑等を見て模写し、オリジナル図鑑の作成をする
 - ④ 水族館に行き、実際に本物を見る
- ◎準備物：トレーシングペーパー・ハサミ・のり等・カプラ・ピアノ・図鑑・

【実施記録】

- ① 春の保育参観で、親子で一緒にイラスト写真を見たり、自分の好きな海の生き物を考えて制作した。そのなかで、「たこがこれくらいのおおきさなら、カメはどれくらいのおおきさだろう？」と実物のおおきさにも関心を寄せて、作るサイズ感にもこだわっていた。友達が作った生き物を見ることで刺激され、「僕はこのなかにはない生き物を考えて作ってみたい」とイメージを膨らませながら制作する子もいた。作る途中で、「どうやって細く紙を切ったらいいかな？」と投げかけると、トレーシングペーパーを横にしたり、縦にしながらちぎる様子があり、紙の特性にも気づきながら制作をしていた。

数日後、保育参観の振り返りをするなかで、子ども達の会話から動物園に行った、水族館に行った、などの話が出てきたので、自分たちがイメージするものを作ってみるのはどう？と投げかけた。



- ② 投げかけた後で、子どもたちから「家を作りたい」「水族館を作りたい」「ゲームコーナーを作りたい」などいろいろな意見があがった。すべて作るにはたくさんの素材が必要と分かり、ピースの多いカプラを使用して見立て遊びを楽しむことにした。水族館や自分たちの住む町など、イメージを膨らませて見立て遊びを楽しむことが増えた。「ここにはジンベエザメがいて、こっちは氷の世界だからペンギンかな？」など、生き物の特性を踏まえながらそれぞれのスペースをつくっていた。



- ③ 春から海の生き物に触れてきたので、子ども達は「水族館に行ってみたい」と話すようになった。遠足の場所を水族館に決めると、自分たちでオリジナルの図鑑を作り始めた。部屋にある図鑑を横に置いて模写する姿を見て、生き物のからだのパーツに注目できるように「お腹のところどうなってる？」と声をかけると、「あ、ぶつぶつしてる！」と気づき、模様を書き足したり、消して書き直すなど、緻密に作り上げようとする姿が見られた。

A4サイズのコピー用紙に模写をし終わると、「どうやって本の形にする？」と友達同士で相談し合っていた。しばらく様子を見てみると、半分に折って、テープで留めだした。出来上がると、「見て！完成した！」と嬉しそうに見せ合い、後から図鑑を作る子にはアドバイスをする様子も見られた。「自分が作った図鑑を見ながら本物も探したい」と遠足を心待ちにする様子があった。

- ④ 遠足当日は自分たちが作成したオリジナル図鑑を手に持ちながら、「このページの●●はあっちのコーナーにいる！」と足早に向かった。水槽に図鑑を押し付けながら、水槽の中と図鑑をよく観察して「そうそう、これは…」とそれぞれの生き物の特徴を大人に教えたり、友達同士で教え合う姿があった。



【振り返り】

- ・春から11月頃にかけて、海の生き物について触れて活動したこともあり、活動の流れもスムーズだった。子どもたちはそれぞれの活動の中で友達同士で話し合ったり、アドバイスをし合う様子があった。必要なタイミングで質問を投げかけたり、場合によっては声をかけずに見守ることで、子どもたちのつぶやきやひらめきが引き出されることがある、ということを実感した。大人の役割としては、物的な環境を整えることはもちろん、子ども達の興味関心の把握や観察が最も重要だと感じた。

令和6年度 高円寺りとりぱんぷきんず すくわくプログラム報告書

クラス【 0～5歳児 】

実施日：令和6年度4月～

テーマ：遊～静と動の活動～

ねらい：・制作や見立て遊びを通じて関心を高め、表現活動や運動要素を取り入れて身体を動かすことを楽しんだり、自身の身体のことを知る

活動スケジュール（事前準備した素材や道具・環境設定を含む）

- ① 図鑑を見たり、自分たちのイメージを広げて海の生き物の制作をする
 - ② リズム遊びを通じて表現することを楽しむ
 - ③ リズム遊びの中に運動器具を用い、運動要素を取り入れる⇒運動会の競技に取り入れる
 - ④ 身体の使い方に興味関心を示し、体幹トレーニングを通して、自身の身体を知る
- ◎準備物：ホールやテラス・ピアノ・ボール・運動遊具

【実施記録】

- ① 報告書1枚目と同活動
- ② 数日後、前回の活動で海の生き物の制作をしたことを振り返りながら、今日は身体を動かしてリズム遊びで海の生き物を表現することを提案すると「僕はカメを作ったよ！」と制作を思い出しながら、カメになりきって表現する様子があった。このとき、子によっては身体のバランス感覚や体幹の弱さが見られたため、身体を支えたり、背筋を意識できるような声をかけた。



- ③ 数日後、同じようにリズム遊びを楽しみながら、運動器具も用意した。新しい運動器具で身体を動かすことを楽しみ、「次はこんなコースを作るのはどう？」と職員に提案してくれる姿もあった。器具を使う中で、身体のバランスを取ろうと集中して狭い段差の上を歩いたり、慎重に足を運ぶ様子があったので保護者の方にも見てもらおうと、運動会の親子競技に取り入れた。



※リズム遊びと運動遊びのみ 0～2 歳児も複数回参加

④ これまでのリズム遊びやボール遊びなどで身体の使い方を見てみると、全体的に子どもたちの体幹が弱いことが見えてきた。

オリンピック柔道メダリストが体幹トレーニングをしてくれる機会があったので子ども達の体幹トレーニングを実施した。普段からリズム遊びや週に一度のスポーツ教室等で身体を使うことが多いものの、柔道という視点で新たな運動遊びを教えてもらえたことは新鮮で、子どもたちも意欲的に参加していた。

体幹トレーニングを通して、「受け身」という方法を知り、受け身をうまくとるためにはどうやってすればいいのだろう？とコーチと一緒に考える様子があった。頭をぶつけないように、守るようにして受け身を取ると、転んでも痛くないということを知った。実際に一人ずつマットの上で受け身を取ってみることで「できた！」につながり、それぞれが自信を持って取り組むことが出来た。



【振り返り】

春から年間を通じて活動に取り入れることができた。

制作から始まり、リズム遊び、運動遊びと発展でき、そのなかでこれまでの活動を子ども達が振り返って言葉にすることがあった。活動の様子から保護者の方にも知ってもらう機会を作ることができ、身体の使い方として、どのようなところに難しさを感じているのかなど、保護者と共通理解を図る機会となった。

柔道式の体幹トレーニングは私達保育士にとっても初めての取り組みとなり、新たな視点で活動の幅が広がった。大きくなったら柔道の選手になりたい！という子どももいた。トレーニングのなかでしっぽとりゲームをしたが、ルールも分かりやすく、職員もその後継続して遊びのなかに取り入れることができた。活動を通して体幹を意識して座ったり、運動器具を使用して様々な動きを知ることができた。

令和6年度 高円寺りとりぱんぷきんず すくわくプログラム報告書

クラス【 0～5歳児 】

実施日：令和6年度4月～

テーマ：遊～静と動の活動～

ねらい：・さまざまな表現方法を知る

・楽器に関心を示し、自分たちで演奏したり、表現しようとする

活動スケジュール（事前準備した素材や道具・環境設定を含む）

- ① リズム遊びを通じて表現することを楽しむ
 - ② ピアノ以外の楽器を知る
 - ③ プロの演奏会を楽しみ、園にはない楽器に触れる
 - ④ 表現の方法を知る
 - ⑤ 発表会で表現することを楽しむ
- ◎準備物：ピアノ・その他の楽器

【実施記録】

- ① リズム遊びで海の生き物を表現することを提案すると、「僕はカメを作ったよ！」と制作した時のことを思い出しながら、カメになりきって表現する様子があった。表現遊びをしているなかで、数名がピアノを囲むようにして集まり、ピアノに関心を示した。
- ② そこでピアノ以外の楽器を紹介した。紹介をした時期は、楽器練習の時期と重なったこともあり、様々な楽器を用意することが出来た。楽器によって奏で方に違いがあることを知らせたり、それぞれの音色を紹介すると、すぐに自分たちも触ってみたいと訴える様子が見られた。実際に触ってみると、楽器の持ち方によって音の鳴り方に違いがあることを知り、どのように楽器を持てばいいのかを子ども達同士で教え合う姿が見られた。



- ③ 演奏をすることに興味を示した頃、園にはない楽器を紹介し、プロの演奏を見てもらう機会を設けた。そのなかでクラリネットという楽器に触れ「どうやって音を出すの？」と音の出し方に興味津々の様子だった。鈴やタンブリン、木琴とは違って、自分が息を拭きこんで音を出す、という仕組みをプロから教わり、触ってみたい、と引き寄せられるように近づいていた。楽器の紹介の他にもオペラに触れるなど、表現の様々なジャンルを知ることが出来た。



- ④ リズム遊びや楽器遊び、プロの演奏を経て、様々な表現方法を知った。ほかにも、音楽に合わせてリトミックスカーフを用いた表現や、クリスマス時期にはクリスマスの衣装を身に着けて、クリスマスソングに合わせた身体表現をするなど、表現の活動の幅を広げた。子ども達は、スカーフを小さく丸めて、一気に広がる様子に興味し、何度も繰り返し楽しんでいました。



- ⑤ 年度の最後には生活発表会で楽器の披露や表現を披露した。楽器を持つと嬉しそうに、楽器を揺らして音を出したり、耳に当てて音色を聞く様子が見られた。海の世界をテーマに一人ひとりが海の生き物に扮して、自信を持って表現することを存分に楽しんだ。



【振り返り】

一年を通じた表現活動の中で、子どもたちは自身の経験を創造的に発展させる力を育んできた。海の生き物になりきる遊びでは、「カメを作ったよ!」と思い出を表現へとつなげる姿が見られた。楽器紹介では、奏で方の違いに興味を持ち、実際に触れながら学び合う様子が印象的だった。

プロの演奏を間近で鑑賞したことで、新たな楽器や表現に関心が広がり、クラリネットの音の仕組みに夢中になる子どもたちの姿があった。また、リトミックスカーフを使った動きや、季節の行事を取り入れた表現では、音楽に合わせて身体を動かす楽しさを存分に味わえたようだ。

生活発表会では、それぞれが海の生き物になりきり、自信を持って表現する姿が輝いていた。この一年の経験を通じて、子どもたちは多様な表現に触れ、自分なりの表現を楽しめるようになった。今後も、彼らの好奇心を引き出せる環境を大切にしていきたい。